



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月13日  
上場取引所 東

上場会社名 大王製紙株式会社  
 コード番号 3880 URL <https://www.daio-paper.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐光 正義  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 井川 準一 (TEL) 03 - 6856 - 7513  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月6日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	268,618	4.2	12,409	57.5	11,278	68.1	10,814	141.9
2019年3月期第2四半期	257,684	1.9	7,881	194.0	6,708	27.8	4,471	7.4

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 5,116百万円(△2.0%) 2019年3月期第2四半期 5,222百万円(△11.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	72.05	64.88
2019年3月期第2四半期	30.57	26.79

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	749,464	200,819	25.4
2019年3月期	745,866	199,339	24.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 190,414百万円 2019年3月期 185,602百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	5.00	—	5.50	10.50
2020年3月期	—	5.00			
2020年3月期(予想)			—	5.50	10.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560,000	4.9	30,000	147.5	27,000	174.3	19,000	304.5	126.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期2Q	153,713,191株	2019年3月期	153,713,191株
2020年3月期2Q	3,623,719株	2019年3月期	3,620,340株
2020年3月期2Q	150,091,165株	2019年3月期2Q	146,257,718株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期決算補足説明資料は、下記当社ウェブサイトに掲載を予定しています。  
[https://www.daio-paper.co.jp/ir/ir\\_news/](https://www.daio-paper.co.jp/ir/ir_news/)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で景気は緩やかに回復しています。しかし、長期化している米中貿易摩擦を要因とした世界経済の減速の影響により、先行きは不透明な状況です。

このような状況の中で、当社グループは第3次中期事業計画「Move on 革進と飛翔」（2018年5月31日発表）の2年目を迎え、2020年度の経営目標達成に向けて、急激な外部環境変化に対応可能な強靱な企業体質への革進を図るとともに、長期ビジョンを見据えた成長戦略に全社一丸となって取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間の紙・板紙事業については、需要構造の変化に対応するため、柔軟に生産品種を変更できる三島工場の特長を活かし、メディア用途の紙から包装・梱包用途の紙の生産にシフトする等の生産品種を最適化する取組みを進めました。併せて、生産効率の改善に向け、品種の統廃合に取り組みました。

ホーム&パーソナルケア事業については、衛生用紙カテゴリーのトップメーカーとして6月より価格修正に取り組む、その効果が発現しました。また、消費増税前の駆け込み需要に対応するため、生産・供給体制の強化に取り組みました。

これらの取組みの結果、当社グループの連結営業利益については、紙・板紙事業が牽引役となり、前年同四半期を上回りました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、以下のとおりとなりました。

売上高	268,618百万円	(前年同四半期比	4.2%増)
営業利益	12,409百万円	(前年同四半期比	57.5%増)
経常利益	11,278百万円	(前年同四半期比	68.1%増)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,814百万円	(前年同四半期比	141.9%増)

セグメントの状況は、次のとおりです。

## ① 紙・板紙

売上高	158,409百万円	(前年同四半期比	2.9%増)
セグメント利益	9,560百万円	(前年同四半期比	97.1%増)

新聞用紙は、新聞の発行部数及び頁数の減少の影響等により、販売数量・金額ともに前年同四半期を下回りました。

洋紙（新聞用紙を除く）は、消費増税前の駆け込み需要やプレミアム商品券印刷用途等の特需があったものの、チラシ・出版用途の需要減少が進んだ影響により、販売数量は前年同四半期を下回りました。しかし、平判製品等の高付加価値品への販売シフトが進んだことや、価格修正が浸透したことにより、販売金額は前年同四半期を上回りました。

板紙・段ボールは、米中貿易摩擦による工業製品向けを始めとした輸出需要の落込みや、天候不順による飲料分野や青果物の荷動きが低調だったこと等を受けて販売数量は前年同四半期を下回りましたが、昨年実施した価格修正後の製品市況が維持されていることで、販売金額は前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は、チップ、石炭等の原燃料価格の高騰等によるコストアップを、難処理古紙の増集荷と利用の拡大及び洋紙・板紙の価格修正の浸透により吸収したことで、前年同四半期を上回りました。

## ② ホーム&amp;パーソナルケア

売上高	99,036百万円	(前年同四半期比	6.7%増)
セグメント利益	2,377百万円	(前年同四半期比	16.9%減)

国内事業については、衛生用紙は、汎用品から長尺トイレット、保湿ティッシュ等の高付加価値品への生産・販売シフトを更に進めるとともに、価格修正を実施したことにより、販売数量・金額ともに前年同四半期を上回りました。

大人用紙おむつは、市販ルートでは新商品「アテント 背モレ・横モレも防ぐ うす型スーパーフィットテープ式」、「アテント 長時間モレ安心パッド ワイドタイプ 4回吸収」等、病院や介護施設から定評のある商品が在宅復帰後も継続使用できる点を評価され、順調に拡販が進みました。業務ルートでは、商品の品質

に対する高い評価を背景に、地域包括ケア病棟を中心として計画以上の新規案件獲得を達成しました。この結果、販売数量・金額ともに前年同四半期を上回りました。

フェミニンケア用品は、成長市場である吸水ライナーカテゴリーにおける「ナチュラ さら肌さらり」の配荷拡大・売上伸長により、販売数量・金額ともに前年同四半期を上回りました。

ベビー用紙おむつは、新たに実施した数量限定の販促企画が好評を得たものの、少子化による市場縮小の影響を受け、販売数量・金額ともに前年同四半期を下回りました。

ウェットワイプは、「キレキラ！」シリーズ及び除菌ウェット商品の販売が引き続き好調に推移し、販売数量・金額ともに前年同四半期を上回りました。

海外事業については、中国ではベビー用紙おむつでの高付加価値品の販売構成比率の引き上げや、衛生用紙の拡販による複合事業化を推進したことで堅調に推移しています。昨年より代理店政策を見直したインドネシアでは、新たな流通体制の立ち上げが順調に進みました。ベビー用紙おむつで販売減少となったタイでは、今後の事業拡大を図るために流通体制の見直しの検討を進めるとともに、複合事業化の取組みとして進めてきたフェミニンケア用品の販売が順調に拡大しました。一方、韓国では日韓関係の悪化から発生した日本製品の不買運動の影響があったこと、及びロシアでは商流変更に伴う在庫調整の影響により、一時的に販売が減少しました。これらの結果、海外事業全体では、販売数量・金額ともに前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は、国内事業において昨年10月に稼働させた川之江工場の衛生用紙生産設備による生産・販売増加、及び今年6月から実施した衛生用紙の価格修正による増益効果はありましたが、海外事業において韓国やタイでの販売減少の影響を受けたことで、前年同四半期を下回りました。

### ③ その他

売上高	11,173百万円	(前年同四半期比 3.0%増)
セグメント利益	447百万円	(前年同四半期比 212.3%増)

主に売電事業、機械事業、木材事業及び物流事業であり、木材事業において海外でのチップの外部販売増加等により、セグメント利益は前年同四半期を上回りました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、主に三島工場N7号抄紙機の板紙生産設備化工事による固定資産の増加により、前連結会計年度末に比べ3,598百万円増加し、749,464百万円となりました。

負債は、主に投資有価証券の売却等で課税所得が増加したことに伴う未払法人税等の増加により、前連結会計年度末に比べ2,118百万円増加し、548,645百万円となりました。

純資産は、主に利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ1,480百万円増加し、200,819百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.5ポイント上昇し、25.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月10日に公表しました連結業績予想を以下のとおり修正しました。詳細については、2019年11月13日発表の「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2020年3月期通期(2019年4月1日～2020年3月31日) 連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	560,000	20,000	17,000	13,000	86.61
今回修正予想 (B)	560,000	30,000	27,000	19,000	126.59
増 減 額 (B-A)	—	10,000	10,000	6,000	—
増 減 率 (%)	—	50.0	58.8	46.2	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	533,890	12,122	9,842	4,697	31.70

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	106,548	109,607
受取手形及び売掛金	96,915	94,030
電子記録債権	12,174	11,815
たな卸資産	76,695	80,893
その他	7,380	6,117
貸倒引当金	△62	△61
流動資産合計	299,650	302,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	81,713	80,651
機械装置及び運搬具（純額）	135,585	136,176
土地	80,468	80,313
その他（純額）	39,940	45,638
有形固定資産合計	337,706	342,778
無形固定資産		
のれん	43,553	41,725
その他	11,685	14,774
無形固定資産合計	55,238	56,499
投資その他の資産	53,020	47,569
固定資産合計	445,964	446,846
繰延資産	252	217
資産合計	745,866	749,464

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	58,774	54,601
短期借入金	19,222	19,328
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	—	23,733
1年内返済予定の長期借入金	49,839	53,252
未払法人税等	2,250	7,117
引当金	4,991	5,049
その他	42,741	45,164
流動負債合計	177,817	208,244
固定負債		
社債	60,300	60,300
転換社債型新株予約権付社債	23,745	—
長期借入金	250,755	245,410
退職給付に係る負債	22,060	22,825
引当金	406	280
その他	11,444	11,586
固定負債合計	368,710	340,401
負債合計	546,527	548,645
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,859	42,859
資本剰余金	42,968	43,429
利益剰余金	99,189	109,180
自己株式	△2,910	△2,910
株主資本合計	182,106	192,558
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,051	3,835
繰延ヘッジ損益	△20	△2
為替換算調整勘定	△6,089	△6,560
退職給付に係る調整累計額	554	583
その他の包括利益累計額合計	3,496	△2,144
非支配株主持分	13,737	10,405
純資産合計	199,339	200,819
負債純資産合計	745,866	749,464



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	257,684	268,618
売上原価	200,265	203,277
売上総利益	57,419	65,341
販売費及び一般管理費	49,538	52,932
営業利益	7,881	12,409
営業外収益		
受取利息	106	86
受取配当金	302	337
受取保険金	4	394
補助金収入	370	211
その他	835	947
営業外収益合計	1,617	1,975
営業外費用		
支払利息	1,524	1,616
その他	1,266	1,490
営業外費用合計	2,790	3,106
経常利益	6,708	11,278
特別利益		
固定資産売却益	8	6
投資有価証券売却益	—	6,778
企業結合における交換利益	1,438	—
その他	258	375
特別利益合計	1,704	7,159
特別損失		
固定資産除売却損	327	387
減損損失	773	2
災害による損失	504	304
早期退職費用	—	239
その他	195	233
特別損失合計	1,799	1,165
税金等調整前四半期純利益	6,613	17,272
法人税、住民税及び事業税	3,761	6,747
法人税等調整額	△1,611	△266
法人税等合計	2,150	6,481
四半期純利益	4,463	10,791
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△8	△23
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,471	10,814

## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	4,463	10,791
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,441	△5,209
繰延ヘッジ損益	72	18
為替換算調整勘定	△1,936	△513
退職給付に係る調整額	182	29
その他の包括利益合計	759	△5,675
四半期包括利益	5,222	5,116
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,570	5,174
非支配株主に係る四半期包括利益	△348	△58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

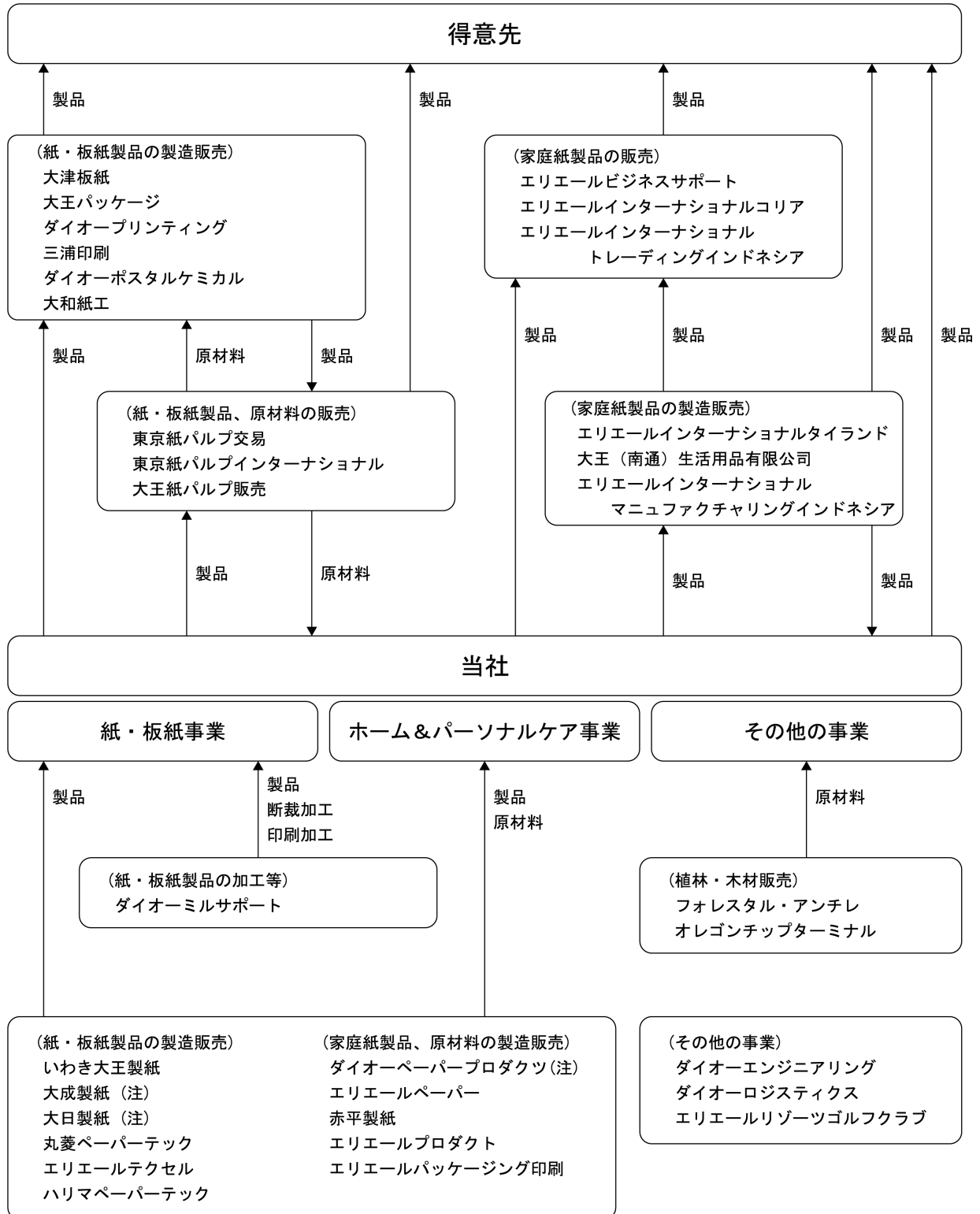
該当事項はありません。

事業系統図は次頁のとおりです。

事業系統図

無印 前連結会計年度末における連結子会社

32社



(注) ダイオーペーパープロダクツ、大成製紙、大日製紙は、紙・板紙製品及び家庭紙製品を製造販売しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	紙・板紙	ホーム& パーソナ ルケア	計				
売上高							
外部顧客への売上高	154,009	92,826	246,835	10,849	257,684	—	257,684
セグメント間の 内部売上高又は振替高	9,752	1,462	11,214	30,741	41,955	△41,955	—
計	163,761	94,288	258,049	41,590	299,639	△41,955	257,684
セグメント利益	4,850	2,861	7,711	143	7,854	27	7,881

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、造林事業、機械事業、物流事業、売電事業、ゴルフ場事業及び不動産賃貸事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去に係る調整額です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	紙・板紙	ホーム& パーソナ ルケア	計				
売上高							
外部顧客への売上高	158,409	99,036	257,445	11,173	268,618	—	268,618
セグメント間の 内部売上高又は振替高	10,265	1,589	11,854	32,309	44,163	△44,163	—
計	168,674	100,625	269,299	43,482	312,781	△44,163	268,618
セグメント利益	9,560	2,377	11,937	447	12,384	25	12,409

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、造林事業、機械事業、物流事業、売電事業、ゴルフ場事業及び不動産賃貸事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去に係る調整額です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。